

コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当たり7.29人と、前週と比べてやや増加しました。また、感染性胃腸炎の集団発生が2件報告されており、注意が必要です。特に、集団生活の場では、手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

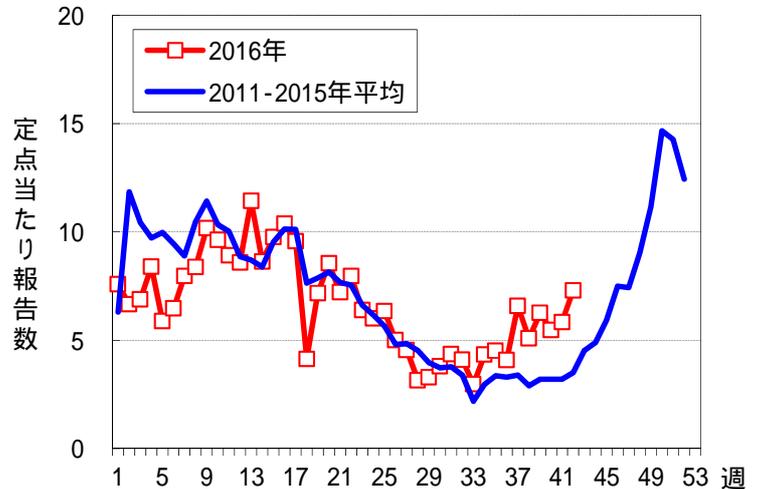
2. インフルエンザ

市内の定点医療機関から、10人(定点当たり0.27人)の報告がありました(迅速診断キット:A型陽性9人、B型陽性1人)。

3. レジオネラ症

5件の報告があり、今年の累計は18件となりました。(次頁参照)

感染性胃腸炎の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	増減状況		
												急増減	増減	微増減
小児科	インフルエンザ	10	0.27	0.01	◀	小児科	流行性耳下腺炎	7	0.29	0.69		急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
	咽頭結膜熱	8	0.33	0.30		小児科	RSウイルス感染症	20	0.83	0.95	▶	増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	1.67	1.09	▶	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	175	7.29	3.50	▶	眼科	流行性角結膜炎	4	0.50	0.55		横ばい	→	ほとんど増減なし
	水痘	6	0.25	0.63		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-				
	手足口病	32	1.33	0.75	▶		無菌性髄膜炎	-	-	0.09				
	伝染性紅斑	5	0.21	0.14			マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.34				
	突発性発しん	10	0.42	0.45			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	百日咳	-	-	0.13			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-				
	ヘルパンギーナ	14	0.58	0.09										

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	125	男性(20歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人
4	日本紅斑熱	1	2	男性(70歳代)
4	レジオネラ症	5	18	男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・市外・1人、男性(90歳代)・1人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	20	女性(80歳代)・2人
5	梅毒	2	19	男性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人

定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	週次	広島市	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
			第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	0.11	0.17	1.25	5.08	0.42	1.04	0.08	0.54	0.13	0.33	0.50	0.96	-	0.38	-
	第38週	4	4	30	122	10	25	2	13	3	8	12	23	-	3	-	-	4	-	-	-	-
	第39週	6	6	32	150	14	27	9	10	1	12	12	21	-	5	-	-	7	-	-	-	-
	第40週	12	5	44	131	4	33	4	15	1	26	13	32	-	7	-	1	1	-	-	-	-
	第41週	15	5	29	140	6	34	3	14	1	8	5	29	-	9	-	-	9	-	-	-	-
	第42週	10	8	40	175	6	32	5	10	-	14	7	20	-	4	-	-	3	-	-	-	-
定点当たり	第38週	0.16	0.25	1.33	6.25	0.58	1.13	0.38	0.42	0.04	0.50	0.50	0.88	-	0.63	-	-	1.00	-	-	-	-
	第39週	0.32	0.21	1.83	5.46	0.17	1.38	0.17	0.63	0.04	1.08	0.54	1.33	-	0.88	-	0.14	0.14	-	-	-	-
	第40週	0.41	0.21	1.21	5.83	0.25	1.42	0.13	0.58	0.04	0.33	0.21	1.21	-	1.13	-	-	1.29	-	-	-	-
	第41週	0.27	0.33	1.67	7.29	0.25	1.33	0.21	0.42	-	0.58	0.29	0.83	-	0.50	-	-	0.43	-	-	-	-
	第42週	0.23	0.26	1.61	3.69	0.29	1.39	0.12	0.47	0.02	1.02	1.11	2.32	0.01	0.97	0.04	0.06	1.33	0.02	0.01	0.01	0.01
	第41週	0.24	0.21	1.28	3.43	0.26	1.09	0.09	0.41	0.02	0.55	0.94	2.02	0.01	0.77	0.02	0.05	1.23	0.01	0.01	0.01	0.01

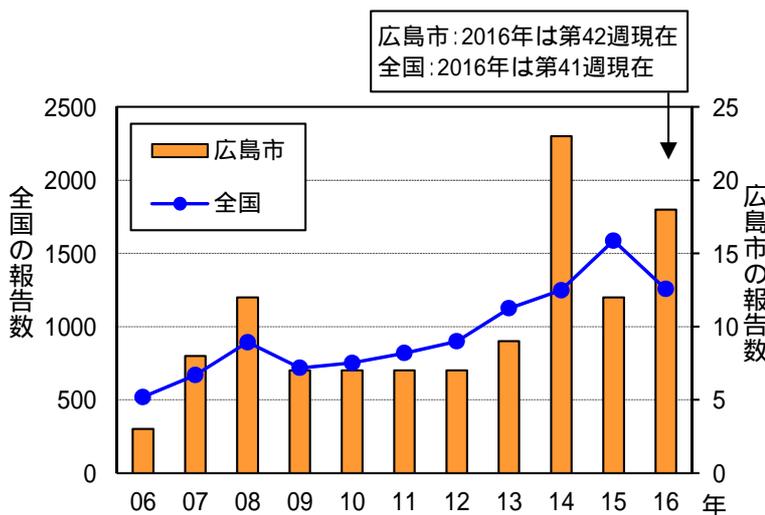
新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(37.7) 嘔吐 嘔き気 腹痛	3	女	2016/09/14	糞便	ノロウイルスG2群
手足口病	発熱(39.2) 丘疹 紅斑 口内炎	9	男	2016/08/31	咽頭拭い液	ヘルペスウイルス3型
百日咳	レブリーゼ	0	男	2016/09/05	咽頭拭い液	百日咳菌
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1)	0	男	2016/09/12	咽頭拭い液 糞便 尿	コクサッキーウイルスB3型 ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	下気道炎	8	女	2016/09/12	咽頭拭い液 鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 咽頭炎	0	女	2016/09/15	咽頭拭い液	RSウイルス
その他の疾患	発熱(38.5)	0	男	2016/09/10	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスB3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市及び全国におけるレジオネラ症の年間報告数の推移



レジオネラ症の広島市における報告数が、今年(2016年)は第42週現在で18件となりました。なお、患者はすべて50歳以上、肺炎型で、男性が17件とほとんどを占めています。全国的にも中高年の男性に多い傾向が見られ、年間報告数も増加傾向で推移しています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することによって発症し、肺炎型とポンティアック熱型に分けられます。レジオネラ肺炎は2~10日の潜伏期間の後、咳、38以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が出現し、胸部X線で肺胞性陰影の所見が認められます。

感染を予防するためには、不衛生な場所でのエアロゾルの吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽、ジャグジー、加湿器、冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666

E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第42週(10月17日~10月23日)